



みんなで祝おう！

ヨンゴーマル！

4月27日に長崎ブリックホールで、長崎開港450周年記念式典を開催しました。新型コロナウイルスの影響で無観客開催となりましたが、その模様をYouTubeでオンライン配信しました。

国内外のさまざまな方々からお祝いのメッセージをいただき、また、地元の皆さんの演奏や演劇が式典を盛り上げました。すでに開催しているイベントをはじめ、この1年間を「ヨンゴーマル」を合言葉にみんなで祝いましょう！



式典での記念演奏やヨンゴーマル大使・サポーター、演劇についてはYouTubeで！

1年間のイベント情報は、
長崎開港450周年ホームページで！



長崎と交流のある海外の都市や、長崎にゆかりのある著名人の皆様にお祝いのメッセージをいただきました

長崎開港450周年に向けて

幼い頃、父のバイクに乗せられて、石橋から松が枝埠頭へ向かう電車を走り抜けるのが好きでした。

スピードを上げるバイク。頬を打つ風に潮の匂いが混じり、そして一気に港の景色が広がる。

今でもふと思うことがあるのです。

美しいという言葉を感じたのが先だったのか、それとも長崎の港を見たのが先だったのか。

どこまでも行けそうな、そんな自由を知ったのが先だったのか、それとも十代の頃、長崎の港の埠頭に初めて一人で立ったのが先だったのか。

生まれ故郷の長崎を離れて、早三十年の月日が流れましたが、未だに故郷を思う時、真っ先に浮かんでくるのは長崎の美しい港です。

小説家となった今、長崎で生まれ育ったことが大きな財産の一つになっています。何かを言葉にしようとした時に、浮かんでくる原風景のすべてが長崎の景色なのです。

海と書くとき、浮かんでくるのは長崎の港です。空と書くとき、浮かんでくるのはトンビたちが旋回する港の上空です。夕日とは、稲佐山の向こうに沈むものであり、船といえば、松が枝の埠頭に停泊する大型帆船の勇姿です。

きっと私が書く言葉のすべては、長崎の港から生まれているのだと思います。とすれば、小説家である私は、この長崎の港から生まれたのかもしれません。

開港450周年記念事業の開催を心からお祝い申し上げます。



吉田修一

©新潮社



(姉妹都市) ポルトガル ポルト市長



(姉妹都市) オランダ ライデン市長



(市民友好都市) ドイツ ウルツブルク市長



草野 仁



ストレイテナー
ナカヤマシンペイ ホリエアツシ



宇田 直樹



①



③



②



④



⑤

①開港 400 年の際に設立された長崎交響楽団が「ときめく みなと、つながる みんなと」を演奏／②全国から集まった 763 点の中から選ばれたロゴデザイン制作者の倉地孝幸さん（東京都）。会場入口にはロゴのフラワーアートが飾られた／③ヨンゴーマル大使・サポーターの皆さんによるあいさつ（写真上：右は宝塚歌劇団元花組トップスターの安寿ミラさん、中央は地元 CM でおなじみの松尾悠花さん）／④長崎市演劇協会による「450 年前の春物語」／⑤さだまさしさんと田上市長による「夜景」や「食」など長崎のキーワードに沿った「長崎みなとトーク」